えど友ホームページ
https://www.edo-tomo.jp/

えど友

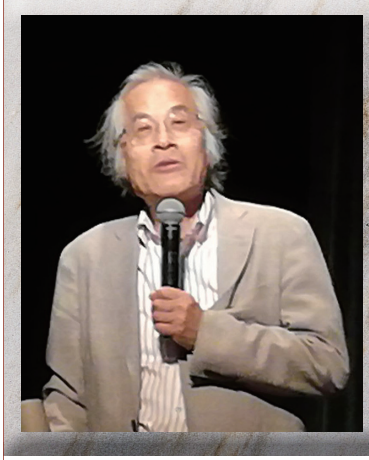
EDO-TOMO

第110号
令和元年
(2019)
7－8

江戸東京博物館友の会会報

目次

藤森館長記念講演「日本の洋館」……1～2
第19回 定期総会開催 ……3
えど友広小路……4～5
会員からの投稿「オリンピック体操の記憶」／えど友サークルだより／館蔵古文書翻刻だより／友の会めも
『江戸名所図会』輪読会～第100回月例会を迎えて～ …6
見学会「浅草周辺の寺社を歩く」……7
えどはく探訪　特別展「江戸の街道をゆく～将軍と姫君の旅路～」見学の記……8
えど東京一景(17)－竹芝・日の出－ ……9
江戸博クリップ「なぜ学芸員になったのか」……9
江戸名所図会を歩く…㊹
[大法山本傳寺から妙永山本納寺]……10
催事案内／会員優待のお知らせ ……11～12



江戸東京博物館友の会　2019年度定期総会　記念講演
（令和元年5月24日）

日本の洋館

江戸東京博物館　藤森照信 館長

日本の近代建築には2段階の流れがありました。まず幕末から明治のヨーロッパ風の建物、もう一つは無国籍でヨーロッパの影響がない昭和モダニズムの流れです。今日は前者の歴史的建造物である洋館についてお話しします。

ベランダコロニアル建築

長崎の外国人居留地であった地にグラバー園があります。園内にわが国最古の洋風建築グラバー邸、リンガー邸などが残されていますが、これらにはベランダとよろい戸が付いていることが特徴です。窓は腰高窓ではなく床まで開いているフレンチドアになっています。これらはイタリアやフランスで発達したもので、英国やドイツにはなかったものです。英国の武器商人がなぜこういう建物を造ったのでしょう。

この建築様式はベランダコロニアルといいます。日よけがあって風通しが良いベランダですが、語源はベンガル語なのです。酷暑のインドで現地人の生活様式を取り入れたもので、香港、上海を経て長崎に持ち込まれたのです。初期の植民地では、原住民に襲われる可能性がありましたから、2階に住んで1階は倉庫として使いました。大英帝国の植民地として安定すると1階にもベランダが付けられて、部屋の延長として使われるようになりました。グラバー邸には薩長の志士が招かれ、武器の商談がなされて討幕へとつながりましたが、明治以後もグラバーの子孫が住み続けました。華やかな雰囲気のベランダコロニアル建築は長崎で進化し、日本にやってきた外国人たちのためのホテルに取り入れられるよ

▲グラバー邸

うになったのです。軽井沢万平ホテルが良い例です。

下見板張りコロニアル建築

開国してから10年ほどして、もうひとつのタイプの洋館が北海道に建てられました。札幌の時計台です。木造で下見板が張られペンキが塗られていて、ベランダはありません。

ヨーロッパには基本的に板張りの家は存在しませんが、英国には半木造のチューダー様式というのがありました。これは木材の骨組みが外側に露出しているのが特徴ですが、骨組みの間を石やレンガで埋めた建築です。英国南部に下見板張りの家が見られますが、すき間風を防ぐために、チューダー様式の壁の上から板を張り付けたものです。これが英国から開拓時代のアメリカ、ボストンに伝わりました。これに白のペンキを塗って、アメリカ開拓時代の懐かしさを感じさせる下見板張りの建築となりました。

アメリカでは下見板張り建築は開拓時代以後長く造られましたが、大規模なものは残っていません。日本には明治天皇が北海道巡幸の際宿泊した豊平館（ほうへいかん）が残っています。豊平館は日米両国に現存する下見板張り建築の中での最高傑作といえます。クラーク博士と共に北大にやってきた土木技術者ホイーラーが設計し、大工棟梁の安達喜幸が建設しました。細部には日本らしい意匠が見られます。大工の技術を示すために、まっすぐでも造れるのに美しい曲線を描く曲がり階段や、天井には漆喰の波千鳥などがその例です。

▲豊平館

擬洋風建築

ベランダコロニアルの洋館が東回り、下見板張りの洋館が西回りで日本に入ってきました。この二つの様式と日本独特の要素が融合して、擬洋風建築が造られるようになったのです。主に官庁や学校のような明治政府が主体となった建築が洋風で造られました。とはいっても造るのは大工たちです。早くから外国人が住んだ横浜へ見に行って、それをうまくまねたのでした。本来は石やレンガが使われた部分は、漆喰を使ってそれらしくまねていて、洋館にしては不思議な擬洋風建築が多数造られたのです。

特に地方では市民が資金を出し合って完成させた擬洋風建築の学校が多数出現しました。その代表が、現在は国宝となった日本最初期の小学校、松本の旧開智学校校舎です。玄関の上部には元々は神社のために刻んだ竜が描かれ、竜が昇ろうとする先に開智学校の文字、そしてその両側には真理を射抜くとされているキューピッドが描かれています。校内には手作りの世界地図が掲示されていることなどから、世界に開かれた教育を目指していたことがうかがえます。

本格的洋館の建設

本当の洋風建築を造らなければ、対外的に恥ずかしいと考えるようになったのでしょう。明治10年(1877)コンドルを呼び、日本人の建築家、辰野金吾、片山東熊らを育てました。一方コンドルは大使館などを設計した後、岩崎家に雇われ岩崎久彌邸を造りました。大の日本びいきだったコンドルは純粋な洋館を設計する意図はなかったようです。コロニアルなベランダとフレンチドアがあり、下見板も張られて、日本風の洋館といえます。玉突き専用の建物はスイスの山小屋風のようです。しかしこの洋館はあくまで来客をもてなすためのもので、家族が住んだのは和風の家でした。

▲旧開智学校校舎

岩崎邸内にはイスラム風の部屋が造られていますが、コンドル設計の初代の東京国立博物館もイスラム風に設計しています。なぜイスラム風なのでしょう。「ヨーロッパ風の建物に日本の美術品はそぐわないが、日本の伝統建築は脆弱で地震などから美術品を守れない。ヨーロッパと日本をつなぐ地域であるイスラムなら似つかわしい」というのです。

コンドルのイスラムへの関心は、弟子にも影響を与え、弟子辰野金吾作の初代国技館はイスラム風が取り入れられています。もう一人の弟子片山東熊は、王宮建築赤坂離宮を設計、完成させました。皇太子のための宮殿でしたが、明治天皇がぜいたく過ぎると判断したため残念ながら使用されることなく、戦後、国会図書館などに利用されました。長崎、札幌から入ってきた洋館は、とうとうコンドルの弟子によって王宮建築にまで到達したのでした。

【記録】文：広報部会・大橋弘依
写真：同・中村貞子

第19回定期総会開催

新たな課題の出てきた今後の友の会―心をひとつにして乗り切ろう！

５月とは思えない真夏日となった５月24日(金)、第19回定期総会が昨年と同じ亀戸文化センターのカメリアホールで開催されました。

今年の総会の司会も、毎年おなじみの柏木さんです。13時15分の定刻に始まり、林会長代行のあいさつに続いて、江戸博からの５人の来賓を代表して小林副館長のごあいさつをいただきました。

小林副館長ご挨拶

この中で、小林副館長からはホールの改修工事などがおおむね終わり、引き渡し作業中であること、８月１日より一般の利用も再開すること、また特別展が１年９カ月ぶりに４月27日から再開され、今後も７月の「江戸のスポーツと東京オリンピック」、秋には「サムライ」に関する特別展を開催するというお話がありました。サムライ展については、江戸博のオリジナル企画で、外国人観光客も増えている中、いろいろな見方のあるサムライに関して江戸博の考えるサムライの姿を提示したい、という期待を抱かせる言葉がありました。

それに続いて、今後の江戸博の状況に関する重大なお話がありました。江戸博は、オリンピックの終了後、2022年から大規模改修工事に入ります。これまでは、ホールの改修など部分的な工事でしたが、次は建物全体に関わる大規模な工事になり、2025年ごろまで約３年半もかかるか、というものです。

当然、館はその間全館休館となり2025年夏のリニューアルオープンを目指す、ということでした。全館休館とはなりますが、図書室に関しては近くに場所を借りて開室する方向で現在検討中とのことです。

今後は休館中の江戸博と友の会をどうしていくか、緊密に情報を共有して話し合いをする必要があるというのが小林副館長の締めのお言葉でした。

2018年１月発行の『えど友』101号に掲載された藤森館長の新年祝辞に「オリンピックが終わると、全館の大修理の必要がでてきます」というくだりがありました。これがいよいよ現実になってきたのか、という思いにかられます。

総会議事進行

その後、議長団の選出が一任され、議長に事業部会の野川さん、副議長に同じく事業部会の大澤さん、書記に広報部会の光田さんと総務部会の西さんが選出されました。議長より、本日の出席者数は109人、委任状提出が574人、合計で683人と報告がありました。会員数1385人に対して1/3以上の462人の定足数を上回っているので、総会は成立となり、さっそく議事の審議に入りました。

第１号議案「2018年度事業報告ならびに収支決算報告」について、林会長代行から活動概況の報告があり、その後事業部会長林さん、広報部会長菊池さん、総務部会長松原さん、会計内匠屋さん、翻刻プロジェクトリーダー平川さんと、各担当による報告に続いて、監査報告が小笠原さんからありました。

第２号議案「2019年度事業計画案ならびに事業予算案」は同じく林会長代行の基本方針の説明の後、各担当者からの報告が行われました。総会議案書12頁の「2019年度事業予算案」については一部誤りがあったため、別紙訂正版にての説明が会計担当からありました。

第３号議案「役員および監事の選任」では、まず役員などの推薦方法について「役員等候補者推薦委員会」の松原良さんから、今期の役員選任がイレギュラーなものになったため、その説明が行われました。この後、再任の８人の役員と、新たに役員に選出された６人、再任の監事２人が紹介されて全員が壇上に揃い、代表して新会長となった林さんからあいさつがありました。

会員からの質問

今年も１号から３号の議案ごとに質問を受け付けましたが、これに対する質問はなく、すべて拍手をもって承認されました。最後に進行役が議長から副議長に代わり、友の会全般に関しての質問・意見・要望を気軽に発言してほしいという声に促されたか、お一人が手を挙げられました。

その内容は質問、要望というよりは「そんなに待てない」という悲鳴に近いものでした。小林副館長の「2022年から３年半休館」という衝撃的な話を受けてのものです。林新会長より「友の会としてもすぐには答えは出ないのですが、我々も具体的な話を初めて聞いたので、今後のことは館と情報を共有して対応していき、友の会とそして友の会会員の皆さんと、心をひとつにしていきましょう」という発言がありました。

これで総会は無事に終了し、15時から藤森館長の記念講演「日本の洋館」、17時からは亀戸文化センター２階の大研修室で会員交流会が行われました。昨年同様ケータリングサービスを使って80人ほどの会員が着席で集い、館からは藤森館長、藤井参事、飯塚事業企画課長、前原管理課長、岡塚都市歴史研究室長の参加もいただき、盛況のうちに解散となりました。

【取材】文：広報部会・中村貞子
写真：同・福島信一

会員からの投稿

オリンピック体操の記憶

大橋弘依

1964年の東京オリンピック開催にちなんで作られたと思われる「オリンピック体操」をご記憶の友の会会員はいらっしゃいませんか？ネットで検索しても全くヒットしないのです。

私は東京品川区のＡ小学校に通っていました。担任のＮ先生は、体育教育にすこぶる熱心な方でした。東京オリンピックを１年後に控えてオリンピック体操なるものを紹介、指導なさいました。

うろ覚えながら、体操の伴奏はファンファーレのようなイントロで始まり、厳かな感じの曲に。まず両手で大きな輪を作る動作を５回繰り返します。言うまでもなく５色の輪を表しています。続く曲はリズミカルになり、色々な競技を模した動きがラジオ体操のように連なるのでした。例えば、100ｍ走や、やり投げなど陸上競技を表す動きがあったり、平泳ぎの腕の動きで水泳競技を表したり。全部を覚えてはいませんが、それぞれの動きは、体のどの部分をストレッチするのかきちんと説明して厳しく指導して下さいました。私たちのクラスの何人かが、朝礼の時に台の上でお手本を示したこともありました。

オーケストラによる伴奏があったのですし、Ｎ先生だけの考案というわけではないと思います。しかし、日本全国で行っていたわけではないかもしれず、東京だけとか地域的に限られていたかもしれません。当時小学校６年生の私たちは、オリンピック体操をしながら、１年後の東京オリンピックを楽しみにしていたのでした。

えど友 サークルだより

◆落語と講談を楽しむ会

４月16日(火)月番小山一成さんで新宿末廣亭にて寄席を鑑賞した。三遊亭王楽の「松山鏡」、紙切り芸の林家今丸は「闇夜のカラス」。どう切ったか？　三遊亭遊吉の「城木屋」。総体的に中身のある噺が多くて大満足だった。参加者15人。

５月26日(日)月番松原良さんで西新宿芸能花伝舎(かでんしゃ)に於ける落語芸術協会主催の【芸協らくごまつり】に参加。屋外の舞台での漫才等々大賑わい、屋内舞台では女流三遊亭藍馬(令和初の真打)の噺を途中まで。桂小すみの三味線、三遊亭小遊三の「蜘蛛駕籠」など。参加者13人。

◆藩史研究会

４月12日(金)午前は國定美津子さんが千葉市中央区曽我に陣屋を構えた曾我野藩を発表した。戸田忠至(ただゆき)は宇都宮戸田家(7.7万石)13代忠友から慶応２年(1866)３月、１万石を分知され下野国の北部に位置する高徳に陣屋を置いて高徳(たかとく)藩を立藩。２代忠綱は明治３年(1870)３月に1.1万石で曾我野に移動を命ぜられた。しかしながら、廃藩置県により明治４年４月、その藩知事職を免官された。わずか１年１カ月の藩だった。午後はJR総武線で蘇我へ移動し、現地見学会を行った。参加者９人。

５月10日(金)鶴谷博幸さんが発表した。膳所(ぜぜ)藩は東山道近江国の琵琶湖に面した藩である。家康は、藤堂高虎に膳所城を築かせ、慶長６年(1601)戸田一西(かずあき)が膳所城に入り初代膳所藩主となった。２代戸田氏鉄が尼崎藩に移封後、３代４代藩主は本多氏、５代は菅沼氏、６代７代は石川氏とめまぐるしく入れ代わる。その後、再び本多氏が入封し以後、明治まで13代続く。明治３年(1870)に廃城を願い出て取り壊された。参加者15人。

◆「米屋田中家明治日記」を読む古文書の会

４月11日(木)米屋久右衛門の「日記」明治９年４月11日～６月13日。参加者６人。

４月25日(木)「日記」明治９年６月14日～７月13日。明治初期には訴訟件数が増え裁判所は多忙だったと聞くが、田中家でも、この５月から７月の間に売掛金延滞で２件の訴えを起こしており、１件は和解、１件は係争中。以前にも何件か訴訟に及んでおり、その時は身代限り(資産全部を差し押さえ)になった件もある。参加者８人。

５月９日(木)「日記」明治９年７月14日～８月22日。日本に初めて小学校が出来たのは明治５年。田中家の住む日本橋近辺にも小学校設立の話があり、寄付金の要請があった。町内では田中家を含む３家が多額(？)の寄付により賞賜を受けた。参加者８人。

５月23日(木)「日記」明治９年８月23日～10月14日。参加者８人。

◆『江戸名所図会』輪読会

４月19日(金)担当は中村貞子さん。今回は駒形橋から両国橋までの範囲の寺社である。江戸時代、駒形堂はすぐ前に船着き場があり、人々はここから上陸してまず駒形堂の御本尊を拝んでから浅草寺に参拝した。駒形の諏方神社、大蔵の榧(かや)寺、大蔵前八幡宮(現蔵前神社)は駒形堂と同じく現在もほぼ同じ場所にある。参加者20人。

５月23日(木)担当は下永博道さん。今回は江戸通りの西側をまた浅草まで北上する。祇園社・牛頭天王(ごずてんのう)は明治期に須賀神社と改称して現存。源頼義朝臣由来の伝説のある銀杏八幡宮も現存。第六天は榊神社と名称を変えて蔵前１丁目に移転した。江戸通りと並行して南北に走る新堀通りに沿って、蔵前４丁目から北へ西福寺、浄念寺、東漸寺、龍寶寺、東本願寺などのお寺が続く。新堀川は切絵図では細い溝のようにしか見えないが、挿絵では荷を積んだ船も通行し、川岸は石垣が積まれている。参

加者20人。

◆日本の大道芸伝承会

４月10日(水)発声練習として「外郎売り」と「がまの油売り」を行った。「日本大道芸・大道芸の会」との合同練習であるため、外部の人との交流や演目についても意見を交わした。参加者４人。

５月８日(水)恒例の深川江戸資料館主催イベントが９月28日(土)に確定、今回も出演することが決定したため、 新たな演目を探すこととなった。それとは別に各自の抱えている演目により一層磨きをかけることにした。参加者４人。

◆江戸を語る会

４月27日(土)山田興一さんが「江戸時代の産業と海運」の演題で発表した。江戸時代は統一通貨制度の成立と日本全土を海路でつなぐ沿岸航路の完成によって、大量の商品の全国的流通が可能となった。沿岸航路の開拓、その過程で活躍した河村瑞賢の生涯などについて発表があった。参加者６人。

◆太田道灌ゆかりの地を訪ねる会

４月25日(木)JR 東海道線大磯駅に集合。文明９年(1477)太田道灌が長尾景春の家臣越後五郎四郎を打ち破ったという小磯城址といわれている大磯城山公園にバスで向かった。展望台へ行き、かつての山城をしのんだ。北蔵ギャラリー、大磯町郷土資料館を見学後、旧吉田茂邸地区を見学した。参加者28人。

４月29日(月・祝)１回目と同じコースを巡った。参加者24人。

５月16日(木)JR 山手・京浜東北線田町駅に集合。元和キリシタン遺跡を見て、済海寺(最初のフランス公使宿館跡)に寄り、隣の亀塚公園へ行った。ここには、文明年間太田道灌が物見(斥候)を置いたところとされる亀塚やそれを記した亀山碑があり見学した。道灌が亀塚に物見台をつくったとき亀の霊を守護神として創建した亀塚稲荷神社に参拝した。西馬込へ移動。大田区立郷土博物館に行き見学。北野神社へ行く。道灌が築城を検討したが断念したという天神山は北野神社辺りとされている。参加者27人。

５月19日(日)１回目と同じコースを巡った。参加者26人。

◆文士散歩

４月20日(土)「神楽坂の芸者街をそぞろ歩く」を実施。JR 飯田橋駅西口牛込口に集合。牛込御門の石垣や案内板を見て、甲武鉄道牛込駅跡も確認する。飯田濠、神楽河岸の跡から軽子坂より平行する神楽坂へ。神楽小路、みちくさ横丁より神楽坂仲通り、芸者新道、かくれんぼ横丁、本多横丁などを散策する。次に、材木横丁、和泉長屋横丁より階段を上がり筑土八幡神社で参拝。相生坂より赤城神社、赤城坂を通り新内横丁から横寺町へ。尾崎紅葉旧居跡を訪ねる。参加者８人。

５月18日(土)「神楽坂(2)料亭と文化の街をそぞろ歩く」を実施。JR 飯田橋駅西口牛込橋に集合。江戸時代には袋小路であった袋町に向かう地蔵坂へ。この辺りの「藁店(わらだな)」と夏目漱石について聞き、牛込城跡のある光照寺へ行く。寺内公園から成金横丁を通り宮城道雄記念館へ。矢来公園から田山花袋など自然主義者の書籍を出版した新潮社、矢来能楽堂などを確認する。善国寺、大手門通りから見番通りへ向かい、伏見火防稲荷神社、熱海通りを通り泉鏡花・北原白秋旧居跡案内板を確認し飯田橋駅へ戻り解散。参加者８人。

●各サークルとも引き続きメンバーを募集しております。参加希望の方は、はがきに①サークル名②会員番号(必須)③氏名を記入の上、友の会事務局へお申し込みください。

館蔵古文書翻刻だより

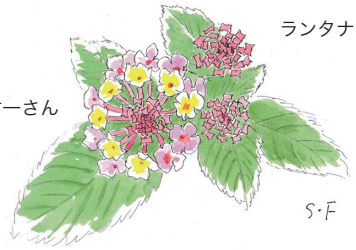
◆Ｂ班「米屋田中家文書」

米屋は、参勤交代行列への人足派遣、勅使接待の賄方、江戸・大名領地間の飛脚など、多様な業態を営み、ために多くの奉公人を必要とした。三代目久右衛門は、処世訓に「自家に勤めた者には、世帯を持たせて渡世できるように務めよ」と書き、事実多数の下請人宿を抱えていた。秋葉山の火防札の配布先の記録では18軒の名があがり、内８軒は「米屋」を名乗っている。これが朝鮮通信使の人馬提供で圧倒的な受注ができた原因であろう。五代目の頃の文政元年(1818)、白河藩邸の依頼で松代藩邸から殿中儀礼に関する重要な書物を受け取ってくる用件で、下請人宿から日雇いを派遣したところ、受け取った書物とともに途中で駈落ちしてしまった。米屋をはじめ下請人宿主人も驚き、各地へ探索の人数を派遣し、やっと在所の大津で発見したが、書物は戸塚宿で売り払ったという。そこで町方手先に同道してもらって戸塚へ赴き、やっと書物を回収したという記事がある。後日談では、失敗にも関わらず迅速に大勢の人を派遣して無事書物を回収した、さすがは人宿だけのことがあると白河藩から褒められたという。

友の会めも(開催日と人数)

平成31年４月～令和元年５月

◆平成31年度江戸東京博物館＆友の会連絡協議会４月23日(火)博物館・藤森館長以下４人､友の会・林会長代行以下19人。◆役員会４月９日(火)13人。５月14日(火)14人。◆事業部会４月２日(火)20人。５月７日(火)23人。◆広報部会４月16日(火)13人。５月21日(火)10人。◆総務部会４月23日(火)27人。５月21日(火)８人。◆古文書講座 入門編：５月８日(水)午前90人・午後96人。初級編：５月22日(水)午前77人・午後72人。中級編：５月11日(土)午前39人・午後41人。◆館蔵古文書翻刻プロジェクト４月４日(木)A 班８人。B 班８人。４月18日(木)A 班７人。B 班８人。５月16日(木)A 班８人。B 班７人。



カット：
福島信一さん

『江戸名所図会』輪読会　～第 100 回月例会を迎えて～

世話人代表：下永博道

江戸東京博物館友の会におけるサークル活動の中で、『江戸名所図会』輪読会は平成 22 年の活動開始以来、本年の６月で記念すべき第 100 回月例会を迎えることができました。現在活動している９サークルの中では４番目に古いサークルとなります。そこで、ここまでの当サークルの歩みを友の会の会員の皆様方にご報告させていただきますとともに、改めて私たちの普段の活動をご紹介したいと思います。

◆『江戸名所図会』とは？

天保５年(1834)の刊行後、売れに売れたベストセラーで江戸の寺社や旧跡などに関する情報に挿絵を添えたガイドブックです。

木版仕上げで全７巻20冊、項目数は1000以上、特に挿絵が素晴らしく江戸に興味を持つ人にとっては必読・必見の本でしょう。執筆・編纂は神田雉子町の古町名主である齋藤家三代が担当し、挿絵は唐津藩小笠原家の御用絵師である長谷川雪旦という豪華メンバーです。

▲『江戸名所図会』巻之一　天樞（てんすう）之部
最初の挿絵は「日本武尊岩倉山に武器を収め給う図」

20冊の内容は、日本橋を始点として江戸を時計回りに進み、あちらこちらと江戸を広く紹介しています。第１、２、３冊は江戸の中心部から現在の都心を扱っており、第４、５、６冊になると品川の先まで、第７冊で再び都心部の日吉山王に戻り、そこからまた次第に西へ、世田谷まで。江戸の名所で名高い淺草寺は第16冊目に登場します。

◆輪読会サークルの立ち上げ

平成22年１月に開催された「『江戸名所図会』の成立について」と題する友の会セミナーを受講し、ぜひ仲間と一緒に読みたいと思い、会報『えど友』にメンバー募集を投稿しました。

その原稿では「必要な時に必要なところを利用すればいいのだが、もう一歩進んで皆で読めばもっと楽しめる、そして読み切ろう」と提案しています。

◆活動の状況

現在は世話人４名、会計１名、印刷補助１名を含む会員20名で、当初からのメンバーと途中からの参加者とが半々という構成になっています。

月例会（８月は夏休み）とし、原則第３木曜日に集まって、輪読会形式で行われます。テキストは評論社の『原寸復刻江戸名所図会』を複写し全員に配布、さらに副読本として角川文庫の『江戸名所図会(一)～(六)』も複写・配布されます。その月の担当者は割り当てられた頁を音読し、その内容を訳したり、まとめたりして他の参加者が理解できるように発表します。

皆さんの発表の仕方にはそれぞれ工夫がなされていて聴いていても面白いものがあり、その後に全員で質問、自由討論を行って理解を深めるという約２時間の会合です。

第１回目の会合は平成22年６月に行われました。これまでに日本橋から品川を読み終えて、霞が関、世田谷、市谷、練馬から湯島、王子まで進み、現在は第６巻16冊目の淺草から下谷を読んでいるところです。残るは深川、亀戸などですが、最後の20冊目を読み終えるのは２、３年後になるでしょうか。

この会は読書というインドアの活動ではありますが、定例会の他に年２回ほど、読んだところの〝街歩き”をベテラン会員の先達で実施しています。自分の調べた場所を歩いて確認するのも楽しい作業です。

◆仲間に入りませんか？

輪読会形式ですので、メンバー数に制限はありますが、まだ少し空きがあります。参加してみたいが、どういうふうにやっているのだろうと、ご心配な方はオブザーバーとしての参加もできます。

前述のように現在の活動は２、３年後には終わりますが、改めて別途組織して再スタートも考慮中です。

ご紹介した当サークルに関心を持ち、参加したいと思われたら、江戸博友の会事務局にはがきでご連絡ください。

江戸東京博物館友の会　見学会　（平成31年4月27日）

浅草周辺の寺社を歩く

４月とはいえ季節が逆戻りしたような肌寒さの感じられる中、東武浅草駅前から順次出発しました。

浅草寺

外人観光客などを中心にごったがえす雷門は、昭和35年(1960)松下幸之助の寄進により再建されました。正しくは「風神雷神門」というそうです。なぜ、雷門と呼ばれるようになったかは不明ですが、文化年間(1804～18)にはその名称が一般化していたようです。

▲雷門

宝蔵門まで続く仲見世は、長さ250ｍ、合計89の店舗が並びます。一番の老舗は浅草寺の山号である「金龍山」を名乗ることが寺から許された、創業300年以上の歴史を持つまんじゅう屋「金龍山」で、１個売りはせず６個からの箱売りに徹底しているそうです。

仲見世裏には幕末の人気戯作者、河竹黙阿弥の住居跡があります。その黙阿弥の代表作「青砥稿花紅彩画」の白浪五人男の人形が、伝法院通り東側の商店の壁面や庇の上に置かれ目を引きます。

仲見世を挟んだ右側にある地口行灯12本に書かれたダジャレも楽しませてくれます。「とんで湯に入る夏の武士(飛んで火に入る夏の虫)」など。

宝蔵門はもともと仁王門と呼ばれていましたが、現在は経典や寺宝を収蔵しており「宝蔵門」と呼ばれています。現在の建物は昭和39年に再建されたものです。門の裏にある大わらじは山形県村山市の寄贈で重さ500kgもあるそうです。

▲宝蔵門と五重塔

弁天山にある梵鐘は元禄５年(1692)綱吉の命により改鋳されたもので、江戸時代の「時の鐘」のひとつです。芭蕉により「花の雲　鐘は上野か　浅草か」と詠まれました。現在も毎朝６時に役僧によって突かれているそうです。

雷門、宝蔵門と並び本堂前にも大提灯があります。重さ約600kg、大きく「志ん橋」の名が入っているのは、新橋の料亭・芸者の組合が奉納したからだそうです。

旧本堂は国宝でしたが残念ながら空襲で焼失し、現在の本堂は昭和33年に再建されたものです。絶対秘仏の御本尊は無理ですが、お前立ちの御本尊は33年に一度の順年開帳、および記念すべき行事の際に御開帳が行われ、拝むことができるそうです。

慶安元年(1648)に建てられた五重塔は東京大空襲までは、池上本門寺、上野寛永寺、谷中天王寺とともに「江戸四塔」の一つとして親しまれていました。現在の塔は昭和48年の再建、それまでとは異なり観音堂の西側に立っています。東側の元あった場所には五重塔跡の碑が立っています。

浅草寺境内にはこの他にも、鎮護堂、久米平内堂、二尊仏、淡島堂、影向堂、室町時代の建築で重文の六角堂など見どころが多くあります。

二天門は浅草寺の東門で慶安２年に再建された重文です。六角堂ともに東京大空襲でも焼け残りました。二天の像は修理先で戦災にあって焼失、現在の二天像は昭和32年に上野寛永寺の巌有院（４代将軍家綱霊廟）から拝領されたものです。

ここから浅草寺の境内を離れ、花川戸公園や皮革製品の店が多い通りを抜け待乳山聖天に向かいました。

待乳山聖天

ここは浅草寺の一山支院で、宗派は天台宗の流れをくんだ「聖観音宗」です。シンボルが「二俣大根」と「巾着」でお供えの大根が社務所で売られています。池波正太郎の生誕地がこの近くで、池波自身も「大川の水と待乳山聖天宮は、私の心のふるさとのようだ」と書いています。境内には戸田茂睡の歌碑「あはれとは夕越えてゆく人もみよ　まつちの山に残すことの葉」もあります。

▲待乳山聖天

今戸神社

待乳山から山谷堀跡の公園に架かる今戸橋を過ぎるとほどなく到着します。入り口には招き猫発祥の地、えんむすび、沖田総司終焉の地の看板があります。この辺りは今戸焼の発祥地でもあります。ただ１軒伝統を受け継いだ店「今戸焼　白井」をのぞき、永井荷風「すみだ川」に描かれた往時の情景に思いをはせながら隅田公園を浅草駅まで歩き、解散となりました。　　参加者97人。

【取材】文・写真：広報部会・福田　徹

（えど友ホームページに地図と写真レポートが掲載されています）

えどはく探訪

特別展「江戸の街道をゆく～将軍と姫君の旅路～」見学の記

平成から令和へと時代が変わる中、４月27日から６月16日まで、特別展「江戸の街道をゆく～将軍と姫君の旅路～」が開催されました。この展覧会は、将軍の上洛と日光社参、姫君たちの江戸下向に関わる資料を通して、「江戸の街道」における旅路をたどるものでした。

この展覧会のポイントは、将軍の上洛・社参、姫君の婚礼時における行列を描いた絵画作品、姫君が江戸下向時に持参した婚礼道具だと思いました。

絵画作品

絵画作品は主に、屏風、絵巻、錦絵に分けられます。

屏風は将軍の上洛、日光・日吉参詣時の将軍家に関するものが展示されています。行列はもちろんのこと、日光東照宮・日吉山王社ほかの建造物、山、旗指物なども鮮やかな色彩で描かれており、装飾を意識した華やかさでした。

絵巻は通常展示する際は長い巻物の一部しか見ることができないのですが、今回の展示物のうち数点は数m以上にわたる婚礼行列を見ることができました。特に「楽宮下向絵巻」

▲楽宮下向絵巻

は20ｍ以上にわたって展示されており、行列の様子、宿場、自然の風景や沿道の人びとの様子までもが描かれ、見始めると端から端まで飽きることなく、大勢の人が列を作り見入っていました。

錦絵は将軍上洛時の模様を描いた「東海道名所風景」「末広五十三次」が多数展示されていました。これらは東海道の宿場などの名所と将軍の行列が描かれていますが、将軍の上洛が決定した際に制作・出版され、これを題材とすることで購買意欲を狙ったものでした。実際には通行していない場所が描かれていたりして事実と虚構が混在していますが、表現に世相が反映されていて興味深いものでした。

▲東海道五十三次図屏風

これらの絵画作品では、いずれも行列の様子だけではなく、宿場や山・海などの風景が詳細に描かれていて、絵画を見ることにより実際の場所や風景の状況が思い浮かぶようでした。また江戸時代には将軍や姫君の姿は直接表現できなかったため「朱傘」によってその存在が暗示されていたことから、その「朱傘」に注目して観賞しました。

絵画作品で意外だったのが船、橋に関する作品でした。この展覧会のタイトルからも、行列の移動というと陸路のみが連想されますが、この展覧会では「熊本藩細川家御座船波奈之丸の図」をはじめ、船に関する絵画も展示されていました。四国、九州の西国大名にとっては参勤交代の際、陸路だけでなく海路も重要でした。船による旅の様子や武家の船が描かれた絵画作品はあまり目にすることがないので、海の移動の歴史を見ることができました。さらに将軍の日光社参の際に川を渡る際に架けられた仮橋の絵図も展示されており、川の通行の歴史をも知ることができました。

婚礼道具

姫君下向時の婚礼道具は、単なる道具としてではなく、見た目の華やかさ、豪華さに重きが置かれていました。細部に至るまで贅を尽くした作りの道具が立ち並び、道具というより調度品を見るように一つ一つ感心しながら見ている人が多数いました。

婚礼道具の中で来館者の目を引いていたのが女乗物です。展示されていた薩摩藩島津家の女乗物は展示物の中では大きく、内部を見ることもできるので、その豪華さに感心しながらたくさんの人が観覧・撮影していました。姫君下向時、実際にこの女乗物を見た人々が驚き、権威に圧倒されたのは容易に想像できました。

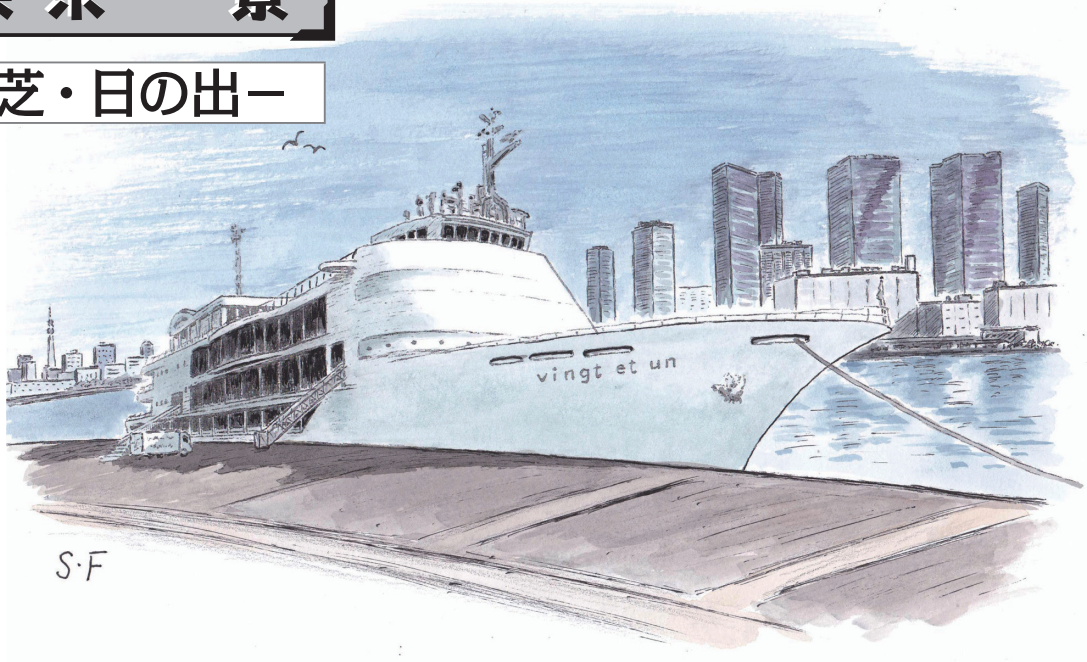
▲黒漆丸十紋散牡丹唐草蒔絵女乗物

将軍は上洛・日光社参時には諸大名を引き連れ、また将軍家の御台所となる姫君は莫大な費用をかけて制作された婚礼道具などを携え、それぞれ長大な行列で街道を通って行きました。いずれも行列自体に権威を誇示する目的があり、家の威信を懸けていたものだということを、展示物を見ていくと感じることができました。この行列が街道を通ることにより、今回の展示物のようなものが生まれ、さらに街や道路も発達しました。明治の鉄道開通以降、交通手段の変化した現在でも利用されていると思うと、「江戸の街道」を身近なものに感じました。

【取材】文・写真：広報部会・横島利明

えど東京一景

(17) ―竹芝・日の出―



ＪＲ浜松町駅から海側に進むと、浜松町駅と竹芝をつなぐ歩行者デッキの工事が進められていました(2020年完成予定)。超高層ビルの建設も進み大きく変貌しようとしています。しばらく歩くと大きなマストのある広場に着きます。かつて貨物専用線路があったときの面影はありません。ここは竹芝ふ頭公園の中央広場で、海側に竹芝客船ターミナルがあります。階段を上がりボードウォークに出ると、右手に日の出桟橋(日の出ふ頭)が見え、その先にレインボーブリッジ、目を左に移していくと超高層ビル、東京スカイツリー、東京タワーが見えます。この景色を気に入っています。この場所は、竹芝ふ頭で、竹芝客船ターミナルですが竹芝桟橋の名称に愛着があります。

芝公園にある「万延元年 遣米使節記念碑」に、江戸竹芝から使節が米艦ポーハタンに搭乗して赴いたことが刻まれています。副使村垣淡路守範正の「竹芝の 浦波遠く こぎ出でて 世に珍しき 舟出なりけり」という歌もありました。当時の竹芝の様子を想像することができます。昭和40～50年代は離島ブームで、竹芝桟橋から大島、新島に行った思い出があります。

日の出ふ頭は、昭和30年代、南極観測船「宗谷」の母港でした。宗谷が一般公開されたときに見学に行ったことを微かに覚えています。今はありませんが、晴海の東京国際見本市会場に行くため、日の出桟橋から船でよく行きました。竹芝・日の出は、昭和の思い出と共に、新しい東京を見ることができる場所です。

【取材】文：広報部会・前田太門／イラスト：同・福島信一

江戸博クリップ

なぜ学芸員になったのか

事業企画課展示事業係　菅井 薫（すがい かおる）

昨年５月に着任し、早１年が経ちました。

訪問学習でよく聞かれる質問が、「なぜ学芸員になったのか」です。私の答えは、「知らないことを知る楽しさを分かち合える人たちと出会い、仕事ができるから」です。

先日、訪問学習に来てくれた中学生が、非常に深い問いと仮説を提起してくれました。その内容は、明治期の文明開化の時代と私たちが生きる現代は、大きな変化に直面している点で似ているのではないかというものでした。あわせて、当時の人たちは、変化にどう対応し、私たちはこれからどう生きていけばいいのか、という問いを投げかけてくれました。「どう生きていけばいいのか」と問われ、はたと困ってしまいました。むしろ、私も教えてもらいたいくらいです。そこで、中学生と一緒に、私が担当する展示を見ることにしました。展示が直接的に答えを出してくれるわけではありません。しかし、私たちは展示資料を見て、対話し、考えることはできます。

上述の中学生との出会いから、あらためて博物館は、資料を通じて、世界、自分、他者を知ることのできる可能性にあふれた場所であることを実感しました。

職場の「ごとうさん」を「おとうさん」と間違えて呼んでしまうような、うっかり者ですが、友の会の皆様とも「知ること／考えることの楽しさ」をご一緒できれば幸甚です。どうぞよろしくお願いいたします。

◆このコラムは江戸東京博物館のいろいろな職務の方々に執筆をお願いしています。

江戸

名所図会を歩く…㊹

[大法山本傳寺から妙永山本納寺]

護国寺の音羽富士

今回は大塚から雑司が谷へと歩きます。途中からは旧弦巻川沿いの寺社巡りとなります。歩いたのは例年より長く桜を楽しめた４月上旬から中旬でした。

大法山本傳寺から神齢山護国寺

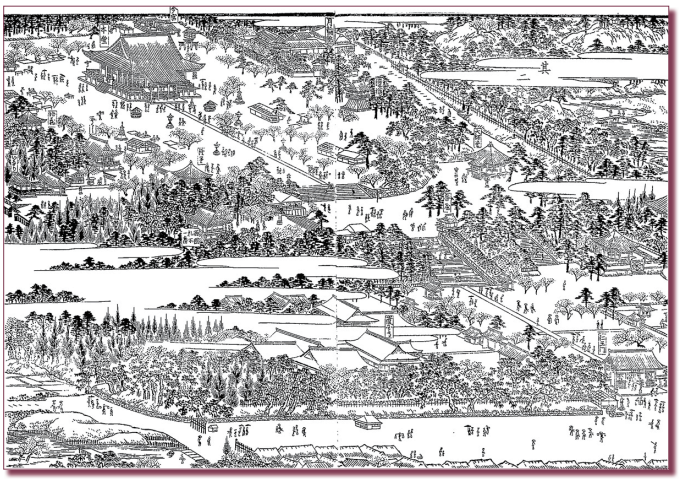
東京メトロ新大塚駅下車。南側の大塚公園を通って進むと、大法山本傳寺の裏に出ます。不忍通り側の山門をくぐった先の本堂は再建されたものですが、軒下の木彫りの竜は手の込んだ作りです。また、付近にあった波切不動尊は本堂脇の不動堂に移されており、ガラス戸に開けられた丸い穴をのぞくと藍色の不動明王像が見えました。

春日通りを渡って富士見坂を下り、豊島ヶ岡御陵手前の細道を進むと吹上稲荷神社があります。ここで門扉の鍵を借りて、その先の大塚先儒墓所へ向かいます。草地の中に儒学者の墓が点在する墓地は明治以降荒廃していましたが、大正３年(1914)に整備されました。奥まった所には鳩巣室先生(室鳩巣)の墓がありますが、墓碑は比較的新しいもののようです。

不忍通りに戻って進むと神齢山護国寺の惣門があり、武家屋敷門の形式を今に伝えています。徳川綱吉が生母桂昌院のために創建した寺で、図会の挿絵には広大な境内と多くの建物が描かれています。現在でも広い境内ですが、当時あった多くの建物が焼失あるいは移築されています。仁王門先の石段手前には桂昌院が寄進した一対の「唐銅蓮形手洗水盤」があり、満開の桜を水鏡に映していました。その右手には「音羽富士」と呼ばれる富士塚があります。かつて境内西側にあった「西国三十三番順礼札所の写し」の中に造られたもので、塚だけがこちらに移されました。山腹には文化14年(1817)銘の合目石や各地の富士講碑が数多く残されています。石段を上がると、正面に元禄14年(1701)建造の入母屋造り・銅板葺きの本堂が威容を見せています。最初に訪れた日は灌仏会(花まつり)があり、稚児行列には多くの人が集まっていました。

大野山本浄寺から不動山宝城寺

首都高速５号線下を渡って右手の小篠坂(小笹坂)を上がると、大野山(現真要山)本浄寺があります。かつては七面大明神を祀る七面堂がありましたが、現在は新しく建てられた本堂に像が安置されています。坂下に戻って不忍通りの少し先から脇道を入ると、雑司ヶ谷鬼子母神出現所(現清土鬼子母神)があります。鬼子母神像が出土したときに星影を映したため、「星の清水」と名付けられた三角井戸が現在も残されています。



▲長谷川雪旦：護国寺

また、ここは雑司が谷七福神の一つですが、通常の弁財天ではなく吉祥天(鬼子母神の娘)の石像が置かれています。

神社裏の細道は弦巻川の流路跡で、道沿いには掘り抜き井戸が残っています。一本向こうの道が弦巻通りで、昭和10年(1935)ごろに川が暗渠化された際、整理された流路の上に造られています。弦巻川は現在の池袋駅近くにあった丸池を源流とし、護国寺の手前で南へ向きを変えて神田川に注いでいました。

通りをしばらく進み毘沙門天の旗の所を右折すると、正面の高台に御嶽山清立院が見えます。皮膚病と雨乞いの御利益により賑わった寺で、石段の脇には「かさもり薬王菩薩安置」と彫られた自然石があり、境内には「請雨の松」が立っています。また本堂には木彫りの毘沙門天像があり、ガラス戸を開けてじかに見られます。石段向かいの辻には享保18年(1733)銘の石塔がありますが、弦巻川に橋を架けたときの供養塔のようです。

雑司が谷霊園への道を挟んだ隣が不動山宝城寺です。入り口には「祈雨日蓮大菩薩」の石碑があり、こちらも雨乞いの御利益があったようです。本堂のガラス戸をのぞくと、本尊の前に日蓮大士像が祀られていました。

威光山法明寺から妙永山本納寺

弦巻通りに戻って都電荒川線の踏切を渡り、東京音楽大学の脇を右折していくと威光山法明寺があります。山門・本堂・鐘楼などはいずれも戦後の再建ですが、江戸時代の様式をとどめています。現在も残る享保17年再鋳の梵鐘は、下縁部に曲尺・枡・天秤・算盤などの用具が図案化された珍しいものです。また墓地には豊島氏の墓や四代目橘家円喬の墓などがあります。

山門正面の参道から続く道を進むと、現在は法明寺の境外仏堂となっている鬼子母神堂(現雑司ヶ谷鬼子母神堂)があります。かつては雑司ヶ谷村の鎮守として大いに賑わい、今日でも参詣者が絶えません。寛文６年(1666)建造の本殿と元禄13年建造の拝殿が現存しており、歴史の重みを感じさせます。境内には樹齢600年余といわれる大銀杏がそびえています。

大鳥居前の道を進むと妙永山本納寺があります。本堂だけの小さな寺ですが、境内には大田南畝筆の狂歌碑である「月花塚」があって目を引きます。ここから鬼子母神大門ケヤキ並木を通って、東京メトロ雑司が谷駅へ向かいました。

【取材】歩いた人(文・写真とも)：
広報部会・菊池真一

(えど友ホームページに地図と写真レポートが掲載されています)

催事案内

古文書講座

◆９月から第２期を開講

９月から下記日程で開講します。受講は自動継続ではありません。改めてお申し込みください。また申込はがきは１講座ごととして、**申込の受付は７月末**までです。

◆入門編　講師：田中潤さん(学習院大学非常勤講師)
- 開催日：９／4(水)、10／2(水)、11／6(水)

◆初級編　講師：安藤奈々さん(学習院大学大学院史学専攻)
- 開催日：9／18(水)、10／16(水)、11／20(水)

◆中級編　講師：吉成香澄さん(徳川林政史研究所非常勤研究員)
- 開催日：9／21(土)、10／19(土)、11／16(土)

- 時間：各講座とも
  午前の講座は10時30分～12時30分
  午後の講座は14時～16時
- 会場：各講座とも江戸東京博物館・１階会議室
- 定員：各講座とも100人(会員のみ)
- 参加費：各講座とも全３回2,000円(初回一括払い)

◆ 2019 年度第１期の残日程

入門編７／３(水)、初級編７／17(水)、中級編７／20(土)

【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)

友の会セミナー

第 181 回「家康の関東入国から関ケ原合戦―文書の見方・調べ方―」

講師　柴辻俊六さん(早稲田大学名誉賛助員)

◆江戸に興味を持たれた皆さんにとって、初めに知りたいかつ知るべき存在は、家康のことではないでしょうか。今回は、天正18年小田原開城より、関ケ原合戦に至る10年間の家康の発給文書から、政権形成上での転機となった文書を選択し、内容の紹介とその背景についての調べ方を検討。写真版の解読法や用語解説も行います。さらに家康の政権構築の経過の中で果たした歴史的な意義もまとめてみます。

◆講師略歴：しばつじ・しゅんろく
昭和16年(1941)山梨県生れ。早稲田大学教育学部卒業。昭和45年(1970)同大学院文学研究科博士後期課程終了。早稲田大学図書館勤務。法政大・国学院・日大非常勤講師。日本古文書学会理事・評議員。現在早稲田大学名誉賛助員。活動：2007年、ＮＨＫ大河ドラマ「風林火山」の時代考証。専門：日本の戦国時代史、日本中世史研究、武田氏領研究。著書：『戦国文書調査マニュアル』『戦国大名領の研究』等。

- 開催日時：８月17日(土)　14時～15時30分
- 申込締切：８月１日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・１階大ホール
- 定員：200人　同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】国定美津子(事業部会)

第 182 回「『皇室』ー御代替わりを迎えて」

講師　羽毛田信吾さん(昭和館館長)

◆本年５月１日、新天皇陛下のご即位に伴い、年号が変わり、「平成」から「令和」の時代に入りました。平成の時代、11年間にわたり天皇陛下(現上皇陛下)のお側近くで勤務した者として、今回の退位(譲位)の意味、天皇陛下のお務めにかけるご信念とご覚悟、象徴天皇の望ましい在り方などの点について、自分なりに考えるところをお話ししたいと思います。あわせて、譲位や上皇の歴史についても、知る限りで触れたいと思います。

◆講師略歴：はけた・しんご
昭和17年(1942)生れ。京都大学法学部卒。昭和40年厚生省入省。平成11年厚生事務次官。平成17年宮内庁長官。平成24年宮内庁参与、昭和館館長。

- 開催日時：９月14日(土)　14時～15時30分
- 申込締切：９月２日(月)必着
- 会場：江戸東京博物館・１階大ホール
- 定員：200人　同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)

【企画担当責任者】国定美津子(事業部会)

えど友会員発表会

第 10 回「えど友会員発表会」

◆名称を「えど友会員発表会」と改めて、最初の発表会を開催します。発表者と演題は次の通りです。

- **横山昌弘さん**
  「夢の超特急」実現！ーファンから見たその姿
  「開業の日は学校を休んで東京駅で一番列車を見送った」という根っからのファンが、見て聞いて調べて知った新幹線の真実を語る。
- **中村明義さん**
  ニット産業の始まりは徳川光圀の靴下から
  「徳川光圀、桜田門外の変、鉄砲鍛冶国友則重」を結ぶキーワードはニット。エピソードで綴るニットの歴史と物語。

- 開催日時：８月６日(火)　13時～15時30分
- 申込締切：７月25日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・１階会議室
- 定員：100人　同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員・同伴者とも無料

【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)

訃　報

山本市郎さん（享年 89 歳）

友の会の発足にご尽力され、初代会長を務められた山本市郎さんが５月28日ご逝去されました。山本さんは江戸博のガイドボランティアとしても長年活躍されてきました。
謹んでご冥福をお祈り致します。

地域文化探訪・学習会

第16回(2019年度 第1回)

「港区立郷土歴史館」を訪ねる

◆かつて「港郷土資料館」がJR田町駅西口に近い三田図書館の4階にありました。平成30年11月、「郷土歴史館」と名称を変更して白金台の「ゆかしの杜」に開館しました。建物は昭和13年(1938)に建てられた旧公衆衛生院の姿を保存改修して活用しています。建物自体の歴史的な外観や内部も鑑賞しつつ、港区の自然・歴史・文化を学ぶことができます。

- 開催日時：8月8日(木)　13時30分～14時　受付
- 開催場所：港区立郷土歴史館
  (港区白金台4-6-2ゆかしの杜内)
- 学　習：14時～15時30分
  今回は学芸員の方から3階常設展示室の主な展示品の解説を伺いながら見学します。そのあとは4階の常設展示室や無料の展示会場を自由に見学していただきます。2階の特別展は別料金がかかりますので、残念ながら友の会としては省きます。
- 交通アクセス：●東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金台」駅下車　2番出口　徒歩1分
  ●都営バス「白金台駅前」下車　徒歩1分
- 申込締切：7月25日(木)必着
- 定員：40人**(会員のみ)　定員を超えた場合は抽選、**希望に添えないこともあります。
- 参加費：会員500円(当日払い)

【企画担当責任者】清水昌紘・中村明義(事業部会)

カット：
佐藤美代子さん

会員優待のお知らせ

●特別展「江戸のスポーツと東京オリンピック」

会　期：7月6日(土)～8月25日(日)
会　員：一般500円、65歳以上250円、大・専門生250円
同伴者：一般800円、65歳以上400円、大・専門生400円
＊中学生(都外)・高校生は65歳以上と同じ。
中学生(都内)・小学生以下は無料。
●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

次回予告

●特別展「士　サムライ ー天下太平を支えた人びとー」

会　期：9月14日(土)～11月4日(月・休)

企画展のご案内

会期残り僅か お見逃しなく！

●発掘された日本列島2019

会　期：6月1日(土)～7月21日(日)
会　場：常設展示室　5F企画展示室

次回予告

●いきものがたり ー江戸東京のくらしと動物ー

会　期：8月6日(火)～9月23日(月・祝)
会　場：常設展示室　5F企画展示室

休館日

7月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

催事のお申込方法

◆**普通はがき(62円)**に、
①催事名(略名可)・開催日
②会員番号**(必須)**
③氏名(同伴者連記)
を明記して下記の「友の会事務局」へ。
◆申込は、催事ごとに会員1人1通。
◆友の会へのご意見・ご要望があれば記入して下さい。
◆申込先：〒130-0015　東京都墨田区横網1－4－1
江戸東京博物館**「友の会事務局」**
＊**「えどはくカルチャー」など江戸博への申込とは違います。**

＊お申込いただきますと、「受講票」をお送りします。当日ご持参のうえ、受付で登録して下さい。
なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数日後一斉にお送りしますので、それまでお待ち下さい。
＊いずれも**申込多数の場合は抽選となることがあります。**
＊「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などはなるべく事務局員出勤の**火曜日か金曜日(10時～12時、13時～17時)**にお願いします。
＊「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込をしてから ご参加下さい。

会報＜えど友＞第110号
令和元年7月1日発行(奇数月1日発行)
編集・制作：江戸東京博物館友の会広報部会
E-Mail：edo_tomo_koho@yahoo.co.jp

発行人：林　正信(会長)　編集長：中村貞子
岡本 脩、福島信一、内匠屋京子、佐藤美代子、前田太門、菊池真一、光田憲雄、大橋弘依、田辺友紀子、小出雅右、横島利明、福田 徹、雨宮正彦
発行：江戸東京博物館友の会
〒130-0015　東京都墨田区横網1－4－1　電話03-3626-9910